

学校読書活動の取組【宇治市立榎島中学校】

1 実践のテーマ

「様々な読書活動を通して、読書に親しみ、主体的に学ぶ意欲と豊かな心を育む」

2 学校の概況や児童生徒の様子等

本校は、宇治市の北端に位置し、京都市伏見区に隣接する地域に学区がある。学区内は幹線道路が縦横に走り、飲食店や商業施設なども多いが、学校周辺は住宅街の静かな環境に立地している。落ち着いた学習環境の中で、生徒は部活動や生徒会活動を主体的に行い、行事や各学年の取組にも、大変積極的に取り組んでいる。授業では、必ずふり返しを行い、学習の定着状況や課題を見直すことで、授業と家庭学習を効果的につなぎ、学力向上を図っている。令和4年度は、特別支援学級3学級を含む計12学級、生徒数は282名である。

3 実践内容

(1) 日常的な取組

◇朝読書

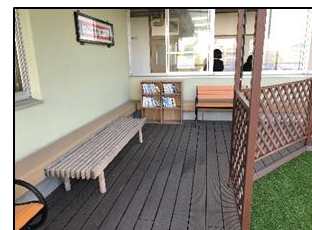
朝8時35分から45分まで、全校一斉に朝読書に取り組んでいる。朝読書用の学級文庫を各学級に設置。10分間の静かな読書時間が、1時間目の授業の集中につながっている。

◇図書館の開館

昨年度は、週3回昼休みの開館だったが、今年度は月曜から金曜まで、週5回の開館とした。(感染防止対策のため、閉館した期間あり)

◇青空サロンの活用

職員玄関横に設けた青空サロンに、本を自由に手に取り、好きな時間に読めるコーナーを設置している。設置する本は、図書館で除籍した本を再利用。



(2) 授業での図書館活用 (学習センターとしての学校図書館機能の充実)

◇図書資料の活用

- ・防災学習や職業調べなど、総合学習のための図書活用、各教科の教材用図書の活用を行った。

◇国語科との連携

- ・〈読書感想文コンクールへの応募〉読書感想文コンクールに、夏休みの課題として取り組んだ。作文事前指導のために、学校図書館を活用し、貸出を行った。課題図書の紹介ポップを読み、感想文の題材として選ぶ生徒も多かった。
- ・〈1年生国語「本のポップを作ろう」〉図書館を利用し、展示してあるポップを参考に、各自、紹介したい本のポップを作成した。
- ・〈国語の単元、定期テスト範囲の関連図書展示〉国語の学習単元や、テスト範囲の関連図書を、ポップとともに、図書館内に展示した。特に古典に関する本は貸出が進んだ。



(3) 情報活用能力育成のための取組 (情報センターとしての学校図書館機能の充実)

◇学校図書館オリエンテーション

全学年全学級に、利用指導と日本十進分類法(NDC)や配架についてのオリエンテーションを行った。分類や書架の配置、0~9類にはどのような本が含まれるかなどをブックトークをまじえながら、図書館を利用する上で役立つ知識を学んだ。

◇学校図書館ハンドブックの全校配布

学校図書館利用のためのルールや図書の分類、館内地図、各学年へのおすすめ本を記載したハンドブックを作成した。全校生徒に配布している。

(4) 読書推進・啓発のための取組（読書センターとしての学校図書館機能の充実）

◇1～2年生全学級、特別支援学級（わかぎ学級）対象 ブックトークの実施

それぞれ、学年ごとにテーマを設定し、6～7冊程度本を紹介した。ブックトークで使用した本は、予約待ちがでるほど人気になり、図書館利用が活発になった。

1年生、特別支援学級（わかぎ学級）…「本の魅力大発見」

2年生…「人生を考えよう」

◇味見読書の実施

1人につき、1冊ずつ本を用意し、1冊3分ずつ本を読む。3分経ったら、後ろの人に本を回す。様々なジャンルの本を回し読みし、新しい本に出会う機会を設けた。味見読書実施後、図書館内に味見読書コーナーを設置し、授業内で読んだ本の続きがすぐに読めるよう、工夫した。

◇3年生、ビブリオバトルの実施

班ごとにおすすめの本を紹介しあい、チャンプ本を選出する。事前に伝えたいことを要約したビブリオメモを記入し、伝える内容や構成をまとめておく。メモを参照してもよいが、できるだけ聞き手を意識して、顔を上げて話すことを目標とした。学校図書館は、読書をし、知識を得るといった点で、インプットする場としての側面が強いが、ビブリオバトルは、アウトプットの側面が強い。「本を通して人を知る。人を通して本を知る」有意義な時間となった。



学校司書による
ブックトークの様子



味見読書の様子



3年生
ビブリオバトル
の様子



◇新春企画イベントの開催

- ・〈本の福袋〉 先生のおすすめの本や、様々なテーマに沿った本を福袋に入れて、新しい本との出会いを提供した。
- ・〈読書おみくじ〉 運勢を占うおみくじに、それぞれ開運図書を記載し、楽しみながら読書を促した。



◇受験生応援コーナーの設置（1～3月）

面接対策の本や、小論文対策の本、また、時事をまとめた新聞コーナーを設け、受験生が知りたい情報に、すぐにアクセスできる場を提供している。



(5) 読書推進・啓発のための年間行事

◇選書会の開催

例年は放課後を利用し、短時間に希望者のみの参加だったが、今年度は授業時間を活用し、全学年全生徒が参加した。読書に親しんでいる生徒ばかりでなく、図書館利用の少ない生徒にも、多くの本と触れる機会を設けることができた。



◇読書アンケートの実施

年度初めと年度末に、生徒の読書習慣についての電子アンケートを実施。アンケートを集約し、図書館運営の改善目標を立てた。

◇多読賞の発表

1年間で集計し、読書冊数の多い生徒に、賞状と1年間の読書記録、文豪の名文しおりを贈る。

◇読書週間の取組

図書館の本を利用し、調べ学習をしながらクイズに解答していく「調べる楽しさ見つけよう！図書室クイズ」を実施。全問正解した生徒には、学校図書館ボランティア特製のしおりや、ブックバックを賞として贈る。



(6) 学校図書館ボランティアとの連携

◇クリスマスおはなし会の開催

学校図書館ボランティアによるおはなし会を体育館で開催。今年度はクリスマス休戦を題材にした絵本の読み聞かせを行い、戦争と平和について深く考える良い機会となった。



◇卒業生への卒業記念しおりのプレゼント

学校図書館ボランティアに協力していただき、担任の先生からのメッセージしおりを作成した。

(7) 図書委員会活動

◇図書委員による新聞掲示… 気になる新聞のニュースをピックアップして図書室前に掲示した。

◇図書館利用ルール啓発や図書館イベントの案内ポスターを作成

◇おすすめの本などを紹介した、図書委員ニュースの発行

◇選書会の会場設営、クリスマスおはなし会の企画や運営



(8) 学校図書館からの情報発信、環境づくり

◇図書だより、本のおたよりの発行、配布（毎月）

◇新刊、人気シリーズ、本屋大賞などのコーナーを設置 また、季節や行事、国語の単元関連図書を展示

◇新刊案内、新聞ピックアップ、ブックリストなどの掲示



◇おすすめ本の紹介放送

月1回、終放送時、図書だよりで紹介した本のあらすじ等を放送した。図書だよりを読むのが億劫な生徒にも、分かりやすいような放送で案内した。

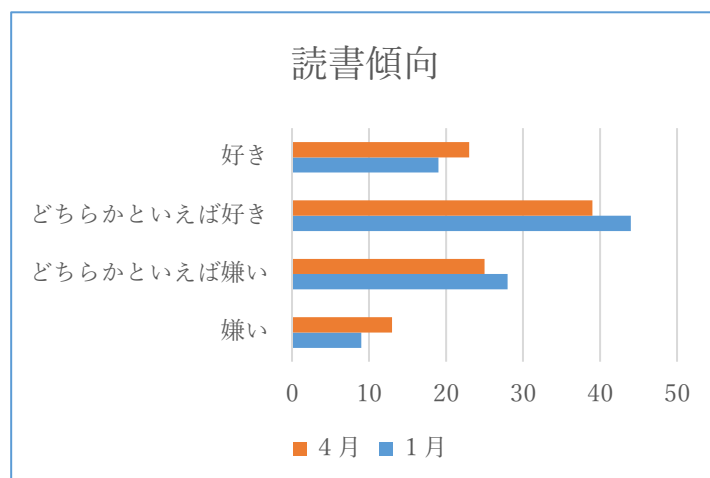
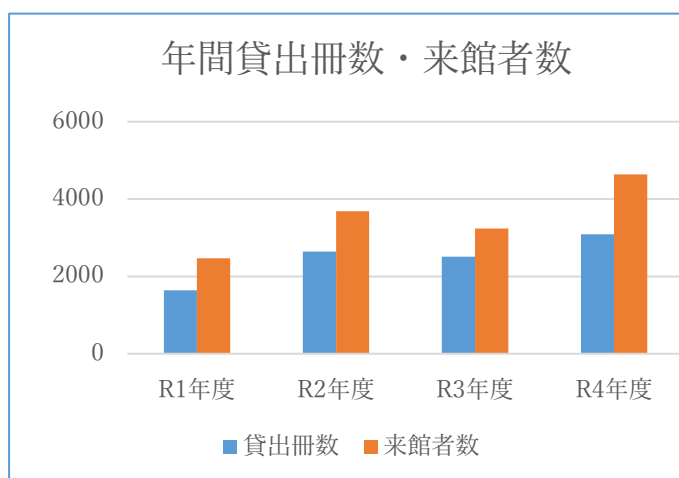
4 成果と課題

◇成果について

開館日数の増加、全学級へのオリエンテーションの実施などにより、来館者数、貸出冊数ともに大幅に増加した。貸出冊数は感染症対策のため閉館期間があったにも拘らず、初めて年間貸出3000冊を超え、令和元年度と比較すると約2倍の増加となった。また、ブックトークに使用した本は1年間を通して貸出が増え、ブックトークの効果を感じられた。

本が好きな生徒だけでなく、より多くの生徒が本に親しみ、図書館を利用できるよう、他にも様々なイベントを行った。選書会では、今年度初めて全生徒が参加し、図書館に配架する本を選書した。選書会後は、普段図書館利用の少ない生徒も多く来館し、新しい本に親しんでいた。また、実際に図書館から本を探し、知りたい情報を導き出す図書室クイズでは、オリエンテーションで学んだNDCの知識を生かして情報収集をすることができた。図書館は読書だけでなく、調べたいことを導き出す場でもあることを学んだ。

最後に、年度初めと年度末に行った読書アンケートの集計で、「読書を好き、どちらかといえば好き」と答えた生徒の割合が57%から、62%に増加した。また、「読書に興味がない」と答えた生徒の割合が、46%から30%に減少した。各種の取組により、図書館や本を身近に感じられる生徒が増えてきたといえる。



(横軸は4月、1月それぞれのアンケート総数を全体とした、全体に対する割合)

◇課題について

読書センターとしての学校図書館利用が活発であった半面、学習センターとしての活用については、検討の必要がある。授業での学校図書館活用を積極的に行えるよう、校内研修などで活用法を周知していきたい。また、国語科とさらに連携を深めるために、各単元に利用できる図書の年間活用計画なども作成したい。

今年度実施した読書アンケート内の回答で、長期休みの開館や、学校司書の常駐を求める声が上がった。週5日の開館により、図書館が読書だけでなく、生徒の居場所としての役割を果たせたといえるが、より一層、居心地の良い居場所として、多くの生徒に受け入れられるよう改善を重ねたい。そして、教員の入れ替わり等によって取組状況が変動しないよう、引継ぎ事項を明確にし、次年度以降も継続させていくことが不可欠である。